

---

# 長い爪

よっちゃん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

長い爪

### 【Nコード】

N0547C

### 【作者名】

よつちゃん

### 【あらすじ】

アニメ派の読者のみな様。ここから先はネタバレを含みます。大丈夫な方だけお進み下さい。忘れたくても忘れられない。あなたのことを・

監視から解放される午前1時。

電気を消して、カーテンを開けると暗い室内に柔らかい月の光が広がる。

静寂の黒い空に浮かぶ、黄色い欠片。

下弦の月。

吹く風に雲が流れ、それを隠した。ふうつと重くなる光り。

カラカラと音を出しながら、戸を開け誘われる様にベランダに出てみた。

まだ乾かない髪を夜風に乗せて、昔よく聴いていた曲を口ずさんでみる。

ずっと歌ってなかったはずなのに、突っ掛かる事なく出てくる詩とメロディ。

嬉しくて頬が上がった。心ここに在らず。それが楽。でもふわふわした気持ちがとても、いらいらさせる。

漂ってくるシャンプーの香りが、閉じようとしていた瞼を開かせた。

寝たいわけじゃない。起きていたいわけでもない。  
どちらでもない。

唯、唇だけは歌詞をなぞっている。先程よりも確りと。

昔は、意味も分からずに歌っていた。今になって分かってもちつとも嬉しくない。

でもこの歌に今、こうして身を委ねているのは事実。

時折、髪をかきあげ水滴を落とす。ばたばたおちる水玉が何だか可愛い。

落とした視線の先には最近工事が終わった道路。

街灯の一つが切れかつかたいて薄暗い。

その下を一台の自動車が走り去っていった。テールランプの赤をそこに残して。

「あ、」

サビの入りを間違えた。そして気づく。

高い空の遠い月に誘われて、ベランダに出たのに観ているのは視線を下げたいいつもの世界。

足掻いてる様で堪らなくなる。突っ張った胸を溜め息で誤魔化して、手擦りを撫でた。

ぎこちない動きをする指は、躊躇いの意思でも持つてるのだろうか。

さっき詰まってしまったところから、歌いだす。

若干震える唇から流れていくサラサラした曲達。

鼻を一回だけ啜りまた歌う。

途切れ途切れになりながら。最後まで歌い切った。

暫く呆然としていたが、風の冷たさに負けて部屋に入ることにした。右足を軸にし、戻ろうとしたその時。

自分の影が濃くなつた事に気づき、振り返る。

雲間から差し込む透き通る光が頭上に降り注いでいた。

瞬きをして、見上げたら不安定な月と目が合った。  
都合よく解釈して、慰められ。勝手に咳く。

「大、くん・・・」

届かなくても、彼方を想い  
逢えなくても、名前を呼ぶ

あの日から切っていない爪が、手のひらに喰い込み少しだけ痛かった。

(後書き)

ばばばーっと思うままに書いてしまいました。汗  
志保と新一の話が・・ちよっと思うように進まず、滝汗 (季節  
がもう梅雨になっちゃうのに泣)

今回の話は、二年前のお話です。別れて(？)半月くらいたった頃  
のイメージでかきましたっ

そんな訳で、ここまで読んで下さってありがとうございます！読  
者様にはいつも感謝しております。それではっ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0547c/>

---

長い爪

2010年10月11日17時33分発行